

光明

第40号
曹洞宗
大峰山
嶽林寺

〒379-1313
群馬県利根郡
みなかみ町月夜野1697
TEL.0278-62-6455
FAX.0278-62-6907
HP: <https://gakurinji.jp>

吉田瑞龍方丈五十回忌・ 植茶智龍方丈三十三回忌 を迎えて

嶽林寺住職 鈴木潔州

お名前に龍の字を頂く二人の先代ご住職。

嶽林三十五世 靈泉瑞龍大和尚

嶽林三十六世中興玉光智龍大和尚

本年、靈泉瑞龍大和尚五十回忌・玉光

智龍大和尚三十三回忌を四月二十四日お

勤めさせて頂きます。

お檀家さんには吉田方丈、植茶方丈の
お名前と呼ばれていた事と思いますが、
お二人には共通な点があります。

それは沼田のお生まれと言う点、迦葉山

龍華院弥勒寺のお弟子さんと言う点です。

吉田方丈のお師匠さまは迦葉山龍華院

住職清水大龍老師、植茶方丈のお師匠さ

まは迦葉山龍華院住職中島信龍老師であ

り、この頃、迦葉山のお弟子さんには龍

の字が入っておりその為であったと思わ

れます。

吉田方丈は戦後の大変な時代に田畑を耕

しながらも寺を守り、戦時中に供出した梵

鐘を鋳造、現在の庫裡を建立しています。

植茶方丈は吉田方丈の後継として、沼

田観音寺、嶽林寺を守りながら、月夜野

町教育委員会に奉職、本堂・お駒堂・鐘
楼堂・宝蔵の各伽藍を改修、山門再建を
行いました。

お二人の功績は大きく、追善供養法要

を行うにあたり、大本山總持寺独住二十

六世光潤道主禪師法雲周行大和尚に御導

師をお願いさせて頂く事になり、十一月

十三日、小野登美司総代長、総代さん達

と横浜市鶴見区の本山總持寺を訪問、

嶽林寺での法要導師のお願いをさせて頂

きました。

石附禪師さまは嶽林寺の御本寺である

雙林寺の先代御住職であり、吉田方丈・

植茶方丈の本葬儀の折には導師をお勤め

頂くという深いご縁を賜っております。

当山は開山以来約五百二十年と言う長

い寺歴がありますが、ご本山の禪師さま

にお越し頂いた記録はなく、今回、石附

禪師をお迎えし吉田方丈五十回忌・植茶

方丈三十三回忌が勤められる事は大変な

名誉であり、お二人のご住職もさぞかし

お慶びの事かと思っております。

尚、四月二十四日は午前十時より大般

若祈禱法要、山門大施食法要を行い、そ

の後、石附周行禪師ご親修靈泉瑞龍大和

尚五十回忌・玉光智龍大和尚三十三回を

謹修致します。

檀信徒皆さんのお参りをお待ち申し上

げております。



あけまして
おめでとう
ございます

さて
さっそくですが
みなさんは

御位牌堂(開山堂)の奥に
鎮座しておられる
三体の木像をご覧に
なったことがありますか？

暗くて実は
よく見えない

ほ"おおー

なぜかと言いますと
今年二〇二四年は
瑩山禪師没後七〇年の
節目の年でそれを記念した
大法要があるからです

しかしながら
今回は再び
瑩山禪師
に焦点を当てたいと
思います

えーと…
道元さんと
瑩山さんの
エピソードは
以前描いた
ことが
ありますが…

そうでしたね

向かって右から
永平寺開山の道元禪師
真ん中が
嶽林寺初代住職の
在天宗齋禪師
左が總持寺の開山
瑩山禪師です

コロナ禍四年目の 大般若祈祷法要・山門大施食会を修行

四月二十四日、午前十時より嶽林寺本堂で、年間行事として一番大きな法要である大般若祈祷会、山門施食会をお勤めさせて頂きました。

四月二十四日、午前十時より嶽林寺本堂で、年間行事として一番大きな法要である大般若祈祷会、山門施食会をお勤めさせて頂きました。

を、東光寺、如意寺の和尚さんにお越し頂き、山内の龍静師、蓮玉師にお手伝いをお願いし法要を行いました。

コロナ禍の前を考えるとごく小規模な法要ですが、少しずつ良き方向に向かっていくのではと感じられた事でした。

法要では一昨年権大教師に補任され被着を許された黄衣を着てお勤めさせて頂きました。



嶽林寺は檀信徒の皆さんがご先祖さまを思うお気持ちにより護られています。

皆さまのおかげさまで黄衣を着ることが出来、本当に有難く心より感謝申し上げます。

お天気は曇り、肌寒く本堂のストーブに火を入れてお勤めにはちょうど良い様でした。

毎年、この時期にストーブを片付けるかどうか迷いますが置いて



あり何よりでした。

昨年は桜の開花が早く、境内のソメイヨシノ、山桜は散りましたが、八重桜が盛りで山吹も美しく咲いていました。

役員の皆さんも法要に参列、お焼香をして頂き晴々としたお顔でお帰りになれました。

この後、各地区の檀信徒への塔婆、お札の配布は大変な手間ですが、よく勤めて頂き本当にありがたい事でした。

大本山總持寺貫首
石附周行禪師拜請

嶽林寺總代 関 泰廣

本年四月二十四日、先代植茶智龍方丈の三十三回忌、先々代吉田瑞龍方丈の五十回忌を、鈴木潔洲方丈のもとで営む運びとなっています。

その際に、曹洞宗大本山總持寺の貫首、石附周行禪師をお迎えして行うべく、鈴木方丈、弟子のチャミンダ龍靜さん、先輩総代七名と共に十名で横浜市鶴見にある總持寺へ、お伺いに行つてまいりました。

早いもので、植茶方丈が亡くなられて三十年以上の月日が流れました。私も植茶さんが教育委員会の職員として、そ



して嶽林寺の住職として元気に活躍されている姿をハッキリと覚えています。

また、吉田方丈が亡くなられて五十年、こちらも子供の頃の記憶として刻まれています。

十一月十三日朝七時過ぎにバスで上毛高原駅を出発。抜けるような青空の下を總持寺に向かい十時には到着。宝蔵館にて曹洞宗の歴史を学んだ後、三松閣で修行僧の皆さんに作っていただいたいの精進料理で昼食。頂く前に、五観の傷を唱え、食べることも仏道修行であることを学び、これからお目にかか

る石附周行禪師との接見に備えました。

まず、監院 渡辺啓司老師にお会いした後、紫雲臺にて石附周行禪師と対面。總持寺通信一月号の表紙の近影の穏やかで威厳のあるお顔そのまゝに、私たちに接していただきました。気さくにお声をかけていただき、四月の法要には行きますと言う快い返事を頂きました。

短い時間ではありませんが、総代全員が石附禅師に直接お会いできたことに限りない喜びを感じていました。

大都會の真ん中に在りながら、ここだけが俗世間とは全く別の、仏教の時間が流れていると強く感じました。帰りには、プロレス界で活躍し過日亡くなったアントニオ猪木さんの墓が境内にあると知り、手を合わせてきました。

四月二十四日には立派な法要ができますよう、総代の一人として微力ながら頑張る所存です。

奪衣婆像修復 覆屋完成

首だけだった嶽林寺の奪衣婆石像。いつのころからそんないたましい姿になってしまったのか？ 誰も知る人ではなくこの奪衣婆に聞くしかない。

三十年前からなんとかしたいと思いつながら、首から下の部分を新たに彫り現況の首と繋ぎ合わせる技術を持つ方がなかなかおらず、ずっと課題のままとなりました。

しかし、齋木三男さん（群馬県中之条町で石材店齋木七郎石材本家を営んでおられ、石の彫刻家としても活躍されています）とご縁を賜り、ようやくお願いさせて頂き、完成した奪衣婆石像が春先、当山に運び込まれました。

見事な出来栄におおいに感心している所です。

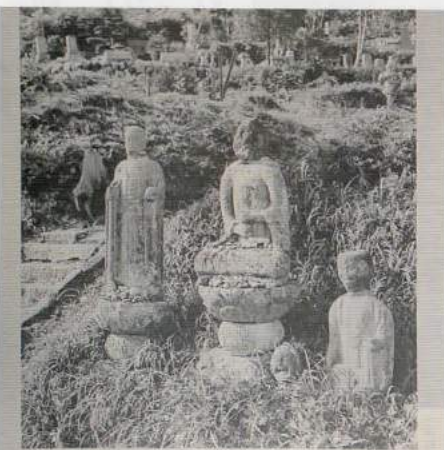
その後、今までの奪衣婆の首が置かれていた場所の改修工事を行い基壇を作り覆屋を建立致しました。

これからどんな
大雪が降っても大丈
夫です。

皆さんにもお参り
頂ければ幸いです。



覆屋も出来て立派になりました。(左から2体目が糞衣婆像)



聖徳の入口に六十六歳、
皇太后と写真のようにながら
目を見てゐる。

それとそれの作風も大抵
平仮名で書かれたものである
が、惜しいかな二頭の一
頭の身体が欠けておとそえ
た一つ身が残つてゐる上に
ぬれかへしてゐる。

圓蓋上の写真の石仏は
開上と思ひながら、眼が生
つてゝ上り見ゆる一羽が生
きている。その元々、力こ
ぼし強硬座に坐してゐるち
やうな體は白がたれてちよ
こんどの部分であるだけで
大體でも積つたら又落ろ
てもつかふかしらね。

身の一部分の彫が良い
だけに残念なことだ

132

沼田万華鏡二十九号（昭和六十一年発行）
中央 閻魔像の台座右に奪衣婆の首があります

没後七〇〇年
ですか…
七〇〇年前って
いうと えーと
何時代？



もう一回
軽くおさらい
しましょうか

曹洞宗は
道元禪師が
開いた宗派で
本山は永平寺ですが
もうひとつの
本山である
總持寺の開山が
瑩山禪師でしたね

瑩山禪師



はい
そうでした
詳しくは
三年前の
光明で！



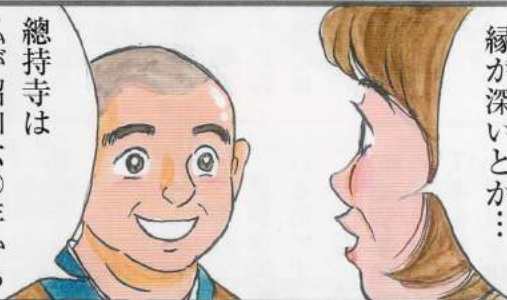
總持寺と
嶽林寺は
関係がとて
深いんですよ
そうです
嶽林寺の住職二人が
總持寺の輪番住職を
勤めたことがあるからです



開山 在天宗齋禪師と
ざいてんしゅうちやうぜんじ
ぶつせん えがいだい おしょう
二十一世物先慧外大和尚です

ご住職も
總持寺とは
縁が深いとか…

總持寺は
私が昭和六〇年から
七年間修行した
お寺ですし
二年前に
總持寺で
執り行なわれた
石附禪師の
晋山式礼でも
五侍者を勤め
させて頂きました



ゴジヤと
いうのは？

多勢の
お弟子さん
の中から
たった
五人
ですか？

メチャメチャ
名誉なこと
なんです
ね！



石附禪師の弟子の中から
五人が選ばれて
禪師が總持寺の貫首と
なれる記念の法要の
お手伝いをさせて頂きました

木像の
まん中の
方ですね



……
待てよ
五人て
いうと

戦隊ヒーロー
ナンチャラーとかと
同じですね♡

まあ…
似たような
もの
ですね…



そういう訳で
今年は私にとっても
曹洞宗にとっても
記念すべき年に
なりそうなのです

その大法要には
ご住職もお勤めに
あがるのですか？

もちろん
です

大法要の期間中は
全国の曹洞宗寺院や
檀信徒さんたちで
それはもう賑やかに
なるでしょう

日程
4月1日～21日まで
本法要
5月27日～6月2日まで
慶讃法要
10月9日～15日まで
慶讃法要

何しろ
次にあるのは
一〇〇年後なんですから

実はもう去年から
日本各地で
今回の大法要に向けて
準備が始まって
いたんですよ
予修法要といえます

ホラその
ポスターが
そこに――

ほんとだ

相承

日本だけでなく
アメリカや
ヨーロッパからも
参加してる

あ！
そうそう
最後に
もうひとつ――

今年は
当山の吉田瑞龍和尚の
五十回忌
植茶智龍和尚の
三十三回忌の
法要があります

四月二十四日
午前一〇時より
行ないます

瑩山禅師の
大法要には
とても及びませんが
こちらも
かなりの規模の
法要となります

先に紹介しました
私の得度の師匠
石附禅師に
ご導師を
お願いする予定です

檀家さんにも
お世話になると
思いますので
その際はぜひお参りを
よろしくお願い致します

はい…

ハア…
どうしました？

むずかしい
カンジばかりで
メガチカチカ
脳ミソ溶けそう

おつかれさま

大事な
お知らせ
です

似てはかったら
すみません
66

中国黄檗山萬福寺参拝団来山

日本、中国の合同法要が六月十三日、
嶽林寺本堂で勤められました。

六月五日、東京虎ノ門にある中国文
化センターで開催された黄檗芸術展
に、国際日中禅文化交流協会会長大谷
哲夫、同会シヨナ理事と参加させて頂
きました。

主催は黄檗山萬福寺（住職定明法
師）、関係諸団体の協力により行われ
たものです。

黄檗芸術展は六月九日まで行われ、
国際日中禅文化交流協会堀口さんも見
学されており、中国からは中国仏教協
会訪日団も参加され、大勢の皆さんが
お見えになられたようです。

小生も書の出展依頼を受け書かせて
頂きましたが、そのお礼にと群馬県み
なみ町の当山まで黄檗山萬福寺訪日
団の皆さん九名に、わざわざお越し頂
きましたものです。

この度の訪日では、大本山永平寺は
じめ臨済宗の各本山、この日は群馬県
高崎にあります黄檗宗少林山達磨寺に
お参りされ、午後三時半に嶽林寺まで
お越し頂きました。

はじめに日本側がお経をあげ、引き
続き中国側が般若心経をお勤めされま

した。

嶽林寺本堂に中国語の般若心経が響
き渡りまことに有り難い事でした。

その後、開山堂、坐禅堂、仏香閣、
宝蔵をご案内させて頂き、庫裡広間で
懇親会が行われました。

本堂では狩野派の画家により描かれ
た中国風俗画（江戸時代後期、六曲屏
風）、十八羅漢画（中国画）、金銅仏（中
国隋時代）も見て頂きました。

懇親会では、定明法師から昨年三五
〇年大遠忌が厳修された隠元禪師（中
国福建省黄檗山萬福寺から渡海し日本
に黄檗宗を開宗される）についてのお
話を伺い、みなかみ町日中友好交流協
会中塚治男会長から歓迎のご挨拶、飯
田良明副会長、鈴木勲副会長からもお
言葉を頂きました。

引き続き行われた懇親会では色々な
話が出て盛り上がり、実に約三時間
ほどの在山でありました。

定明法師からはご自分の書かれた墨
蹟「枕流兼洗耳」、黄檗芸術展の目録、
記念品を沢山頂戴し、まことに恐縮し
た事でした。

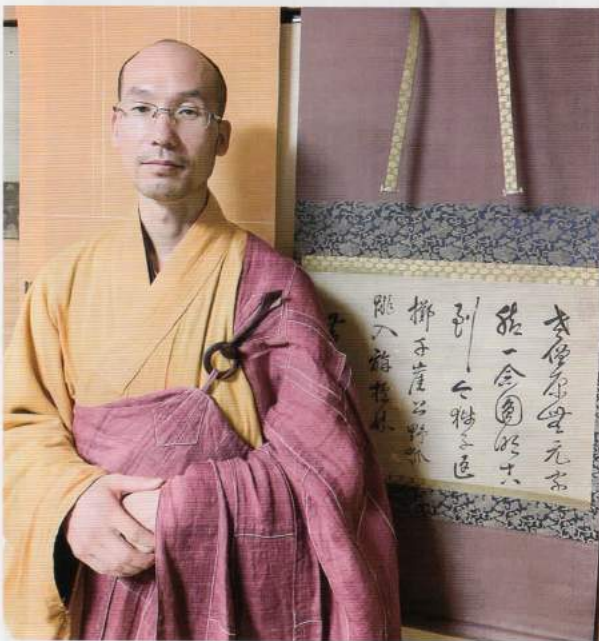
黄檗山萬福寺訪日団の皆さんは猿ヶ
京にある千の谷に宿泊、夜にはまた嶽



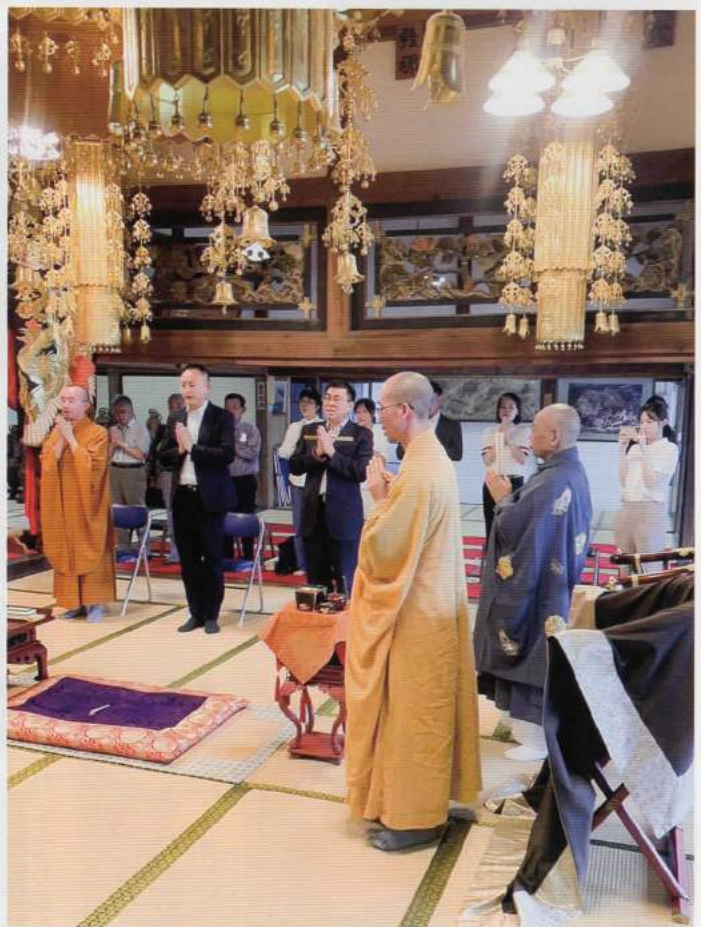


門前より 鈴木住職の先導で上山

林寺にお越し頂きホテル鑑賞を楽しみ
れご案内させて頂きました。
中国のホテルについて質問したところ、昔はいたのですがいまではいないと聞き、日本と同じ状況と感ぜられました。
はるばる中国福建省福生から当山にお越し頂きました万福寺住職定明法師、万福寺教務長源律法師、黄檗文化研究院白撞雨さん、引率兼通訳の任永生さんはじめ訪日団の皆さんには心より御礼申し上げます。



当山所蔵 隠元禅師墨蹟の前に立つ定明法師



嶽林寺本堂での法要



令和5年6月5日 虎ノ門中国文化センター 黄檗芸術展にて



東京プリンスホテルでの祝賀会にて

第13回 指月会開催

群馬県月夜野のお月見として好評を頂いております指月会。九月二十八日、大勢の皆さんをお迎えし開催させて頂きました。

おかげさまで今回で十三回目となりました。

月夜野のお月見は日本百名月にも選ばれており、毎回二百名ほどのご参加を頂いておりますが、今回は百名限定としての会となりました。

はじめての試みでしたが「ゆつくりと座れ演奏にも集中出来ました」と好評。また、演奏に先立って行われたお月見法要では、本山修験宗三重院村上圓信さんの法螺貝での上殿、神道三峯神社高橋和昭さんの祝詞、お祓いが行われ、嶽林寺住職、嶽林寺坐禅会の皆さんによる般若心経がお勤めされました。



「こうしたお勤めははじめて拝見しました。普通、同じ宗派の方が集まるの法要ですが良かったです。住職さんがご挨拶で神仏習合とおっしゃっていましたが、皆さんで世界平和、参加者の方々の幸せを祈って頂き、有り難かったです」との声も頂きました。

お茶席は、後閑宗枝先生、後閑社中・有志の皆さんにより行われました。

例年、お茶席の入口が混みあいご迷惑をおかけしていましたが、今年はそうした事も無くスムーズに行われ、後閑先生のお話も弾み皆さん楽しそうでした。

演奏は、篠笛 金子弘美先生、太鼓 重草由美子先生、二胡 李英姿先生

にお世話になりました。素晴らしい演奏に、皆さん聴き入っておられました。

この度も指月会実行委員会（深津卓也会長）が立ち上げられ、何度もみなかみ町観光協会で会議をお世話になりました。

尚、このイベントはみなかみ町観光協会月夜野地区蛸月会（高橋宏之会長）の統括のもとに行われ、ご指導を頂いております。

竹灯籠（みなかみ町たくみの里で七宝焼の家、キャンドルの家を行なっている由里さんにお世話になります）、月の映像上映（映像作家河戸浩一郎さんが創作活動としてキャリア二十年以上にわたって撮り続けている月の映像を本堂で上映）も行われ、とても良かったです。

第二部は皆さん外に出て、鐘楼堂で篠笛、太鼓の演奏が行われました。

残念ながら雲に阻まれお月さまは見えませんでした、見事な演奏が秋空に響き渡りました。

この度もみなかみ町観光協会、指月会実行委員会、関係各位のご尽力のおかげで指月会を開催する事が出来、関係者の皆さんには心より御礼申し上げます。

本年も皆さんのご参加をお待ち申し上げます。



篠笛 金子弘美先生



太鼓 重草由美子先生



第二部は鐘楼堂で演奏



二胡 季英姿先生



みなかみ町 阿部賢一町長 挨拶



藤原盆展覧会を開催

住職が事務局を勤める藤原ぼん研究会が主催し、嶽林寺、奥利根民俗集古館、月夜野小僧村の三箇所、藤原盆展覧会が行われました。

令和四年九月三十日、午後一時半から藤原盆展覧会開会式が開催。

奥利根民俗集古館に三十五名が集まりました。

「藤原盆展覧会」動画上映

製作 河戸浩一郎

◎藤原盆関係者追善供養 法要導師

嶽林寺 鈴木 潔州

伴僧 三重院・龍静

◎開会式

司会 吉野 正範

会長挨拶 吉野 仍次

経過報告 飯田 良明

来賓祝辞

みなかみ町町長 阿部 賢一

みなかみ町議会議長 石坂 武

各会場主挨拶

月夜野小僧村 平松 庚三

嶽林寺 鈴木 潔州

◎記念撮影

◎集古館案内 会長 吉野 仍次

◎講 演 小野瀬和男先生

◎祝宴 吉野屋

(沼田市文化財調査委員)

開会式に、はたしてどのくらいの方がおみえになるのかまったくわからない中、ふたを開けてみたら大勢の方にご参加頂き感激しました。

群馬県知事戦略部 戦略企画課 未来創生室佐藤陽子室長、小野里典明係長、戦略企画課 松澤有加莉主任、鈴木美香みなかみ町議会議員、地元みなかみ町立藤原小学校松原孝志校長などにもご臨席賜り、まことに有難かったです。

冒頭、河戸浩一郎さんの製作された動画が会場に流され、吉野会長の語る藤原の歴史、藤原盆についてなど非常に興味深かったです。

住職を導師に勤められた供養法要では、藤原盆のはじめに関わったとされる土岐丹後守頼稔、藤原盆を作った名もない木地師、藤原盆に係る物故者などの追善法要を集古館仏壇の真前で修行、みなかみ町阿部町長、石坂議会議長、吉野会長に代表としてお参りして頂きました。

開会式では吉野会長、飯田副会長が挨拶、来賓の阿部町長、石坂議会議長にご祝辞を頂きました。

吉野会長による藤原民俗集古館の館内案内では、参加者に熱心に説明、特



奥利根民俗集古館での開会式



追善供養法要

に藤原盆については色々な質問も出たようです。

講演会では藤原の歴史からはじまり、現在、藤原の地名が確認できる最古の資料に、武田勝頼が嶽林寺開基家小川城主五代小川可遊斎へあてた文書との発表には驚きました。

当山の小川城資料室にこの文書の影印が展示されていますが、その内容は小川可遊斎が藤原の領地を欲しがるも既に他のものにあげてしまった為に替地として師を領地としてあげるというものです。

つまり藤原は豊かな土地（銅などの鉱物や木材が多く取れた）であったのだという。

当山と藤原をつなぐ思わぬ事実でありました。

その他に、後世、藤原盆に着目した方の話など、初めて聞くものばかりでした。

上毛新聞、読売新聞、マイタウンたにがわの記者にも取材して頂き、後日、各誌に記事が紹介されました。

去年三月に藤原ぼん研究会が立ち上げられ約半年で展覧会開催にこぎつけたのは、関係者の多大な貢献によるもので、藤原盆、藤原への愛が感じられました。

この展覧会は奥利根民俗集古館、月夜野小僧村、嶽林寺で九月三十日～十月八日開催（開館時間は十時から十六時）、約五百人の方にお越し頂きました。



月夜野小僧村で沼田市の星野稔市長 挨拶



嶽林寺宝蔵で熊澤修二夫妻



嶽林寺本堂でこね鉢を見る長野県 石黒老師



月夜野小僧村で藤原盆作りにチャレンジ



月夜野小僧村 平松庚三さん 挨拶

嶽林寺にてレコーディング 様々な国の楽器による共演

息詰まるような緊張感。

十月十六日から十月十八日まで嶽林寺で、色々な国の伝統的音楽の共演が行われ、収録が行われました。（外部者見学は不可）

日本の尺八（長谷川将山さん）、箏、しちりき（春日るり子さん）。

洋楽のチェロ（林はるかさん）。

韓国の伝統楽器カヤグマ（金オルさん）。

中国の二胡（李英姿さん）、古箏（毛ヤさん、夏金オウさん）。

モンゴルの馬頭琴（バトエルデネさん）。

インドのシタール（小日向英俊さん）。

レコーディングの録音技術者（小島録音の小島幸雄さん、小島典子さん）。

皆さんのサポート（趙燕さん）。

など十四人を束ねるのは、中国北京から来た音楽プロデューサー葉雲川先生です。

はじめてお会いする方もいる中で、国も楽器も違う音楽をまとめるのは至難の業です。

その上、台本、譜面無しで全て即興。

ミュージシャンも真剣ですが、聴いているこちらまでその緊張ぶりが伝わって参ります。

最初は違和感を感じるも、葉先生の指導の元、奏者の皆さんも次第に息が合い見事な演奏に！

初日、二日目とどんどん良くなるのが手に取る様にわかります。

葉雲川先生は、以前からこのスタイルでの演奏会をプロデュースされ、CDも出されています。

月夜野のお月見として十三回を数える嶽林寺での指月会でお世話になっている二胡の李英姿さんのご紹介で、当山にお越し頂き今回のご縁を頂きました。

朝方九時から夜九時までお寺に詰め切りで打合せ、リハーサル、録音を繰り返し作品を作ります。

小生もこうした経験ははじめての事でしたが、見学するだけでも得るものがあつたと感じています。



韓国のカヤグマ



洋楽のチェロ



モンゴルの馬頭琴





収録の合間に坐禅に行ずる葉代表

葉先生も「寺院での収録はとも良いです。特に今日、坐禅を行えたのは大きかった。アーティストの皆さんも坐禅から感じるものがあつたようです」と語られました。

小生は葉先生からの依頼で「悲鳴」「瞑想」を書かせて頂き、それを先生の足元に飾り録音が進められました。

二日目が終了したのは結局午後十時近く、だいぶ寒くなってきた本堂で皆さん頑張られました。ウクライナとロシアの戦争、イスラエルとパレスチナの戦争など、世界が紛争の中にある現在、この試みには大きな意義が感じられました。CDの完成を大いに楽しみにしております。この度は素晴らしいご縁を賜り、葉雲川先生、ミュージシャンの方々、関係の皆さんに厚く御礼申し上げます。

曹洞宗 龍谷寺 五百年慶讃式典

令和五年十二月二十八日 新潟県南魚沼市 八海山龍谷寺

過日の曹洞宗開

創五百年記念式典
宮修にあたり御随
喜を賜わり有り難
うございました。

御助力をもちまして想定以上の有
難い式典を執り行
う事が出来まし
た。往古六萬寺以
来現在の龍谷寺に
至るまで千年以上
にわたり寺を支え
続けた億に至る多
くの方々の鴻恩に
酬い感謝の誠を捧
げ、更にその歴史
と伝統を承け、今
それを支える我々
の前途が健やかな
ものでありますよ
う御祈願致し慶讃
法要を円成するこ
とが出来ました。

龍谷寺住職

駒形元宗 合掌



龍谷寺は、嶽林寺二世 天慶宗積禅師により曹洞宗寺院となった、当山とは深いご縁を賜っており、この度本寺としてお参りさせて頂きました。誠にありがとうございました。

村松大輔先生来山

量子力学をわかりやすく伝える、ベストセラー作家 村松大輔先生がお見えになりました。

沼田市にお住まいのご両親が当山の坐禅会にしばしばご参加頂いており、お彼岸には村松家にお参りにお伺いしております。

村松大輔先生は東大で量子力学について学ばれ、一般の方にもわかりやすい本を出されています。

「人生を良くしたい」「自分を輝かせたい」と思っているすべての人に向けて書かれたと言う『量子力学的実践術』。

この本と今までの著書と共著を含めての六冊で二十三万六千冊以上（令和四年十月現在）というベストセラーであり、全国の講演会に招聘され大変ご多忙というお話を聞いておりました。

わざわざお越し頂き「両親がいつもお世話になっております。おかげさまで新著が出来ましたので持参致しました」と丁寧にご挨拶と著書を頂戴致しました。

「お茶でも如何ですか？」とお話したところ「これから新幹線で東京に向かい、静岡県御殿場のあたりがとう寺の町田宗鳳先生と対談がありますので失

礼します」と深々と頭を下げ、お帰りになりました。

謙虚で爽やかなそのお姿には驚きました。が、なるほどと思う所がありました。

村松大輔先生のご両親がよく似ておられるのです。

とても礼儀正しく謙虚。

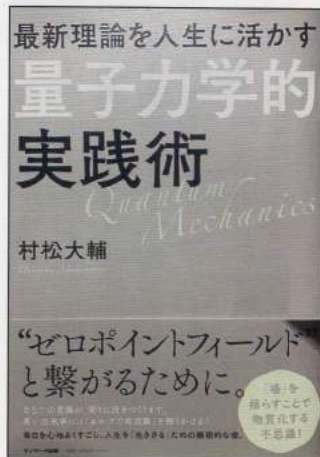
「実るほど頭をたるる稲穂かな」の言葉をいつも思い出します。

わざわざ山寺にお越し頂きご挨拶をされる。

礼節を大切にされるその姿勢には感じ入るものがありました。

人間誰しも自分中心であり、感謝の気持ち忘れがちです。自分自身も反省すべきところばかりです。

今までに四冊の著書を頂いています。が、あらためて読み直してみようと思



家族写真（左が五歳の村松先生）



いました。

今回、この掲載をする前にご連絡申し上げたところ「恐れ入ります、絶大なる褒め言葉。光栄です、そこに見合うよう精進邁進いたします」とメッセージを頂きました。

村松大輔先生ありがとうございます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

檀信徒との皆さんにも『量子力学的実践術』をお勧め致します。

ご覧になって頂ければと思います。

檀信徒よりのお便り

禅画僧の風外道人が縁で、六年前より嶽林寺の早朝坐禅会に参加させて頂いております。五年前の四月第四曜日の坐禅会が済んでから大峰山の北西尾根側より、西に向って坐禅をされている様な仏岩を眺めたことがありました。自然の中においても、自分自身と向き合う機会は少ないです。嶽林寺の坐禅堂で坐ると自分自身の気のつけ方がわかり、ありがたいたいことに気分の良い週が始められました。



仏岩

坐禅会会員 岩井正文

嶽林寺 鈴木住職様

このたびもまた「光明」その他を拝受し誠にありがとうございます。お元氣でお寺のため、人々のために心をくだいておられることに頭が下がります。コロナの思わぬ侵略にすっかり生活や生き方が変わってしまいました。が、まどわされず、自らの生きる道をまっすぐ歩むしかありません。今年もよろしくお願い申し上げます。

かしこ

神尾加代子

みなかみ町文化祭に初参加

嶽林寺の什宝、檀信徒の家宝を展示させて頂きました。

会場はみなかみ町カルチャーセンターで、十一月三日から十一月五日まで、午前九時から午後四時（最終日は午後三時まで）開催。

住職は当番で十一月四日、午後一時から一時間ほどカルチャーセンターで受付を行いました。

当山の嶽林寺禅文化研究会は平成十一年から月夜野町文化協会（現 みな



田村家より拝借した懸仏

かみ町文化協会）に所属、町教育委員会にお世話になっております。

禅文化研究会では年一回の宝蔵特別展を行なっていますが、町の文化祭には参加した事がありませんでした。

今回、文化協会 本多博子会長よりお声がけを頂きはじめて参加。皆さんが真剣に取り組まれているのが感じられ、町民や文化協会に関係する方々が熱心にご覧になられていました。

展示発表は、月夜野俳歌壇、水上短歌研究会、紅短歌部、月夜野書道クラブ、新治書道連盟、ハワイアンキルト会、クラフトハンドメイドharu、みなかみ愛石会、孤峰遠州流挿花会、水上華道会、国風華道会水上支部、池坊文水会、嶽林寺禅文化研究会、みなかみ町牧水会、水上茶道会（茶室）、茶道裏千家式玄会（茶室）です。

初日の十一月三日には開会式、諸団体による舞台発表もあり賑わっておいりました。

嶽林寺禅文化研究会ではお檀家さん（小和知 田村清一家）のお宅で発見された中世室町時代の懸仏二点（一点は嶽林寺所蔵）、昨年十月の藤原盆展覧会に出展されていた藤原盆三点を展示させて頂きました。

会場でお会いした林郁次さん



檀信徒よりのお便り

鈴木方丈様

寒い日が続いておりますが、お元気にご活躍の様子、嬉しく拝見しております。

ただ今、ありがたいお札と嶽林寺さまのお冊子が届き、感激致しました。早速、お札をお仏壇に、立春大吉をお玄関に、鎮防火燭をお台所に飾り、お冊子を拝読しております。

一日一休さんのお子さんが大きくなられて：感激もひとしおでした。いつか、あの子達の同窓会でもできたらステキだな：なんて嬉しく思いました。いつも有り難うございます。

方丈様のご活躍は、何よりの励みでございます。

どうぞお身体をお大切に、お導きのほど心よりお願い申し上げます。有り難うございました。

お寺の皆様にもよろしくお伝え下さいませ。

大島知子

東京 大島知子様より頂戴致しました。大島様には嶽林寺子供禅一日一休さんで講師をお勤め頂き、子供たちと共に歌い遊び、つよい印象を残しています。この度は有り難いお便りを頂戴し、御礼申し上げます。

小川城講演会を開催

毎年恒例の小川城講演会を開催、その後、「大場山観音堂額」復元開眼、小観音堂落慶法要を修行させて頂きました。

五月一日、午後三時から嶽林寺本堂で小川城講演会を行い「御詠歌順礼額を奉納した沼田衆の武士たち」―宮野大場山観音堂額を題材として―を小野瀬和男先生（嶽林寺歴史顧問、元群馬県歴史博物館学芸員）にお話し頂きました。

昨年、坐禅堂の脇に小さな観音堂を



建て、大永二年三月十八日の年記が記載されている額に名前のある久屋法珍斎、発知道康斎、小川岡林斎は沼田衆の武士であり、最後に記されている小川岡林斎がこの三人の中で一番重要人物であるとの指摘もあり、嶽林寺開基小川城の三代城主であり当山とも深い関係のある武将です。

昨年は小川岡林斎が大永二年（一五二二）に亡くなられてちょうど五百年という節目の年であり、この額を復元させて頂きました。

令和四年十一月二十一日、境内にありました聖観世音菩薩の石像を三体集め小さなお堂を作りました。

小観音堂を作った坐禅堂の脇は、本堂から大峰霊園に行く途中であり、ちょうど良い感じになりました。

諸行無常は世のならいであり、時代の経緯とともに色々なものが失われて行きます。

しかし、今回、復元した額は嶽林寺開創時代を生きた小川氏三代岡林斎の生きた証と言えるものもあり、あらためて復元出来たのは特筆すべき事と思っています。

また、大場山観音堂の本尊は聖観世



小野瀬和男先生 講演



音菩薩と記録にあり、当山の境内にありました石仏を集め小さなお堂が建てられたのも意義があると感じています。

小野瀬先生の講演では、この額についての基本資料である「加沢記」についてのお話し、「加沢記」の「沼田大乱之事」に記載された木札についてのお話し、「関東幕注文」の「沼田衆」についてのお話し、小川城と小川氏についてのお話しなど非常に興味深いものでした。

小川岡林斎が沼田八騎として大番役を命じられ、はるばる京都に行き警護を勤め、その役を無事に勤めた賞とし



法要修行

て禁裏（御所）より名品を拝領したと言う話には驚かされました。

更には小川城五代城主である小川可遊斎の出自についての諸説も紹介され、戦国時代を生き抜いた武士の生き様の一端が感じられました。

今回、講演会の参加者は九名と少なかったですが皆さん非常に熱心に耳を傾けられており、地元の歴史についての関心の高さを再認識致しました。

法要では本山修験宗三重院村上圓信師と一緒に勤めが出来たもの有り難かったです。

ゴールデンウィークのご多忙の中を猿ヶ京ホテル持谷社長さんにもご参加頂き有難う御座いました。

たくさんさんのホタルが飛びました

昨年は、嶽林寺の前の古城沢のホタルがすごかったです。

六月十日からホタル鑑賞が始まり、連日皆さんにお越し頂きました。

幻想的な光を放ち飛ぶホタルの美しさには、皆さん歓声をあげられます。

七月九日までの鑑賞期間が終わった後も、結構ホタルを見る事が出来ました。

みなかみ町の職員高橋さんによると、約六千匹は出たのではないかと伺いしビックリしました。

みなかみ町ホタルを守る会の皆さんにより、美しいホタルの飛び環境が整備されています。

また、嶽林寺には竹灯籠が飾られ(六月二十五日まで)、境内散策が自由に出来るようになっておりました。

福田由里さんにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

嶽林寺は春の桜、秋の紅葉がよく知られていますが、嶽林寺前のホタル鑑賞地は北関東一とも言われるホタルの自然発生地として有名です。

とくに暑い日の夜には多くのホタルが乱舞します。

尚、土日は人出が多いので平日がおすすめです。

また、嶽林寺には竹灯籠が飾られ(六月二十五日まで)、境内散策が自由に出来るようになっておりました。



南雲さつきさんのご家族にお越し頂きました



竹灯籠



「ぼくもつける」

子供さんがお線香に火をつけお参りです。

八月十四日、月夜野、杉木さんのお宅にお参りにお伺いさせて頂いた折、大人が線香を盆棚にあげるのに関心を持った男の子が、お母さんに教えてもらいお線香をあげてしつかりお参り。皆さんニコニコとその様子をご覧になられていました。

お盆は仏さまの里帰りと申します。

ご先祖さま、今年はお盆を迎えた仏さまとご家族、ご親戚が集い法



要が営まれる。

亡き人とご縁の皆さんの心のふれあいです。

当家はおばあちゃんの新盆の為、ご親戚が集まり賑やかなお盆になりました。

お勤めをしながらこの光景を拝見、とても良い雰囲気だったので、法要後、男の子にお願いし写真を撮らせて頂きました。

盆棚に飾られた仏さまもお喜びの事と思われました。

お盆の馬は

ペガサス

盆棚にかざられるキュウリで作った馬、ナスで作った牛は、お盆のお供えの定番とも言えます。

ご先祖さまがキュウリで作った馬に乗り懐かしい我が家にお帰りになられる。

帰りはナスで作った牛に乗り沢山の土産を持ちゆつくり帰られる。

誰もが納得するエピソードです。

また、ここからはあの世とこの世をお盆の期間に往来するご先祖さまの姿が自然に感じられます。

以前、オモチャの飛行機が飾られて

みなみ町小川

阿部信光家

加菜子さん

絢乃さん

詩織さん

太一さん



十二月十四日、七五三のお参りに来山されました。

いるのを見た事がありますが、今日の乗り物ははじめて拝見しました！

お経が終わってからお伺いすると「ペガサスです」と。

よくよく見ると折紙で作られてその出来栄には驚きました。

ご両親さまいわく「今年、新盆を迎えた父親（子供さんからするとお祖父さん）の為に子供が作ってくれました」との事。

お祖父さんの笑顔が目には浮かぶようです。

ペガサスに乗った仏さまとは素敵です。

きつとお土産も沢山持ち帰れる事で



しょう。

八月十四日、月夜野、山岸家の新盆法要の折の事でした。

残された古い石造物と 代々続くご縁 山田和男家

小川城家臣団としてその名の知られる山田和男家（月夜野上組）の先代山田一郎さんの一周忌が当山で勤められ、法要後、寺境内にある山田家墓所にお参りさせて頂きました。

当家先祖である山田新左エ門は嶽林寺に石灯籠を寄付（現在、庫裡裏手の庭にあり柱部に山田新左エ門と刻まれている）しており、小川城家臣団としてその名が確認される重要なお宅です。

当家の墓所には古い石塔が多くあり、その最前列右はじにある屋敷型石塔に「如實明見居士 享保七年正月二十二日」と刻まれています。

寺過去帳によると新左エ門とあり、当家先祖かと思われます。ただ、当時はその家の当主になると代々伝えられてきた諡（おな）を継承する事が多く、初代



かは不明ですが、山田家当主である事は間違いないようです。

そしてその右隣には六地藏の彫られた石灯籠があり、柱部には「蓮相妙花大姉 宝永七年十二月二十三日」と刻まれています。

寺過去帳を確認すると「新左エ門妻」



とあり、当主の令室であった事がわかります。

また、六地藏の彫られた石灯籠では完全な姿で立っているのも貴重です。

墓地に残る石造物はその家に関係しているものであり、その家の歴史を物語る大切な遺産です。

しかし、時の経過と共に破損したり片付けられてしまう石塔が多いのも事実ですが、山田家の様に古い石造物を残してあるのは素晴らしい事であり、この墓地を守ってきた先祖さまの思いには感銘を受ける所です。

杉木利也家来山

素敵な笑顔のご家族にお参り頂きました。

嶽林寺開基家である小川城家臣杉木家を祖先に持つ大変古いお檀家さんです。

「ご当家のお祖父さんお祖母さん、ご両親、現在のご家族と三十年以上のお付き合いを頂いておりますが、先祖代々となれば約五百年のご縁となります。」

現在は吉岡町にお住まいですが、こうしたご縁が続くつてすごいです。

当山はもと小川城の二代目の殿様（小川景祐公 嶽林院殿奇巖清俊様

主）が作ったお寺なので、家臣の皆さんも嶽林寺を菩提寺にしていたものと思われまます。

室町時代から安土桃山時代にかけてのお話ですが、そのご縁がこうして継続し若い皆さんにもお寺にお越し頂けるのは本当に嬉しい事です。

昨年、ご主人が起業され奥さまも前橋市に『髪屋—HeadspaBeauty—』を開店されました。



髪屋—HeadspaBeauty— 完全予約制

群馬県前橋市千代田町 3-9-16
パウリスタビル1階
電話 050-5437-7550

とてもきれいでゆっくり出来るお店です。
Instagramでお店の情報を載せておられますので是非、ご覧頂きたいと思います。

父（石倉松治）との別れ

鈴木 幸枝

人は七七日まで地上で過ごし、あの世へと旅立っていくと言われます。

父は、告別式後毎晩私の所にやってくる。楽しそうに色々な話をしてくれました。一週間経った頃、和尚さんが自宅でお経を上げて下さいました。その晩もやってくる。『七七日はみんなと楽しく過ごしたいんだ。頼んだよ』と言うのです。

私は、何をしようか考えました。明



石倉松治・好子夫妻



テレビも早くからあった石倉家



るく楽しい性格の父は、入院している母のところに行くたびに、「これは好子に教えてもらった歌だよ」といながら十八番の歌を歌って聞かせ、楽しい一時を過ごしていました。この様子を参加した方々に見ていただき、父の好きな歌を合唱したりしてお別れすることにしました。

父の若かりし日、母との出会い、妻や子、孫との一時などをスクリーンに映し出し、父の十八番の「リンゴの歌」を合唱して楽しい時間を過ごし、最後には「元気でいってねえ」と替え歌の好きな父が歌いながら去って行くというストーリーに仕上げました。

映し終わると、北西の空の方から「楽しかったよ。ありがたうなあ」とほんわり温かい空気が流れ、その後は私の周りから姿を消してしまいました。きつとみんなの笑顔がプレゼントとして受け取り、旅立ったのだと思います。

ご寄付御礼

芹澤銑介木版画「十大弟子」写

三上徳治將軍 歴史資料 所 幸枝殿

緒子・展示ケース ふじや（高橋）殿

参道観音像 屋根代 木内信秀殿

石倉家旧宅 寄贈品（長持・古筆筒・欄間等）

鈴木幸枝殿・石倉明義殿

藤原益・こね鉢三ヶ 飯田良明殿

中興智龍方丈染筆額 小野塚 茂殿

川端家旧宅 帯戸四枚・階段等 川端愛子殿

本「重要文化財 彫刻」六冊 田口恒夫殿

本「グレッグ・デビス写真集 群馬」 坂口雅子殿

漢詩本「中国の名詩」九冊 熊澤修二殿

金一封 植茶三百喜殿

以上の方々より尊い奉納品を賜りました。紙上より厚く御礼申し上げます。

子供の頃伺ったお釈迦様のお話から、あの世は周波数で別れていると解釈。人間の生まれた使命を知るべく古文獻に触れ、それは愛と感謝の高い周波数に魂を昇華する事と解釈。頭では分かっているも日々「我」との闘い。

ところが、折り込められた周波数のお寺の中での坐禅をする事で、雨音とも一体感に浸れ全ては空、愛の世界と溶け合う感覚に浸れ、魂の昇華への有り難い時を頂け、感謝感謝でございます。

村松百合子

嶽林寺役員

住職 鈴木 潔州

寺族 植茶三百喜

総代長 小野登美司

総代 倉澤 立美・阿部 正晴

河合 幸雄・高橋 知住

阿部 隆治・阿部 康

鈴木 勲・関 泰廣

廣井忠三郎

顧問 鈴木 初夫

監査 原澤 勇夫

本部会計 矢野 義夫・杉木 正伸

世話人 小野塚 茂・芳澤 利行

杉木美知男・山岸 史夫

高橋 知住・高橋 広幸

常山 一郎・太田 健治

杉木 栄治・高橋 延秋

後閑 仙祐・原澤 忠告

山田 和男・原 幸弘

倉澤 重男・長谷川弘行

阿部 忠雄・高柳 進

佐藤 修・吉澤 宏幸

石坂 一司・石坂 達夫

小野 章・小野 一彦

篠田 勝広・石坂 和利

大塚 裕志・阿部 隆治

梅花講員一同

坐禅会

会長 河合 潔・他会員一同

嶽林寺禅文化研究会

会長 阿部正志・他会員一同

（順不同）